

# 平成 25 年度 終了評価書

- 研究機関 : (株)日立製作所、富士通(株)、慶應義塾大学
- 研究開発課題 : 「環境対応型ネットワーク構成シグナリング技術」に関する研究開発
- 研究開発期間 : 平成 22年度 ~ 24年度
- 代表研究責任者 : (株)日立製作所 高瀬 晶彦

■ 総合評価(SABCD の5段階評価) : 評価 A

■ 総合評価点 : 22点/30点

(総論)

通信量の変化に応じて、ネットワーク機器及びサーバ全体の稼働数や稼働箇所を管理することで総合的な省電力化を達成しており、全体的に基準より優れた研究開発成果を上げていると評価できる。

(コメント)

- 基本計画書における目標を上回る有効かつ効率的な成果を上げている。
- 標準化、学会等優れた成果を上げているが、開発した技術をどのように導入するのか全体としての戦略があると良い。
- 将来のトラフィック急増にも対応可能な、更なる省電力化に向けた研究開発に期待したい。

## (1) 研究開発の目的・政策的位置付けおよび目標

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

### (総論)

情報通信技術に対する省電力化の要請は強まるばかりである。今後、クラウドが社会基盤として益々重要な役割を担うことを考えると、クラウドの省電力化は重要なテーマであり、国際的に見ても競争力のある技術やサービスの提供は不可欠。

### (コメント)

- ネットワーク制御とサーバ制御の各々において省電力化の技術がある。それらを連携させることにより技術の真価が発揮される。
- 省電力化を担った環境対応型ネットワーク構築に向けた研究開発は益々重要になる。
- クラウドサービスの省電力化、災害時の信頼性は益々重要になる。

## (2) 研究開発マネジメント(費用対効果分析を含む)

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

### (総論)

適切かつ効率的な研究開発マネジメントが行われている。

### (コメント)

- 適切なマネジメントの下、計画通りに執行されている。

### (3) 研究開発成果の目標達成状況

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

#### (総論)

全ての課題において目標が達成されており、一部では目標を上回る成果を上げている。

#### (コメント)

- 目標を達成すると共に新しい設計手法を提案する等、優れた成果を上げている。
- 目標を達成したことは大いに評価できる。ただ、今後予想されるトラヒックの伸びを考えると、更に踏み込んだ省電力化の可能性についても検討して頂きたい。

### (4) 研究開発成果の社会展開のための活動実績

(SABCD の5段階評価) : 評価 A

評価点 : 4点

#### (総論)

ITU-T、IETF における国際標準化提案を積極的に行っている点は高く評価できる。

#### (コメント)

- 各種展示会におけるデモ、報道掲載、Web による情報発信を積極的に行っている。
- 国際標準化提案、学会発表等については優れた成果と言えるが、研究開発成果をどのような形でビジネス展開していくのか記述が少ない。

(5) 研究開発成果の社会展開のための計画

(SABCD の5段階評価) : 評価 B

評価点 : 3点

(総論)

ITU-T、IETF における国際標準化活動及び製品化促進に向けた研究開発が継続して行われることを期待する。

(コメント)

- 国際標準化活動等について意欲的な計画が立てられているが、製品化・ビジネス化について総合的な検討が望まれる。
- これまでに出願済みの特許が取得できることが期待される。
- 12.9 億もの国費が投入されていることを鑑み、研究開発成果の実システムへの展開に向けた努力を継続して頂きたい。